

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■新規就農者 清流の国ぎふ農業担い手証書の交付

県では、県が認めた農業研修を一定期間受けたのち就農した方に対し、「清流の国ぎふ農業担い手証書」を交付している。

今回は、11月25日に、多治見市の虎渓用水広場で開催された農業祭開会式の中で、市内で就農した2名に証書が手渡された。

いずれも、令和2～4年度にかけて県農業大学校や地元の主業農家において農作物の栽培技術等を学んでおり、地域農業の担い手として活躍が期待されている。

今後も、栽培技術の向上や経営安定に向けたフォローアップを強化するなど、積極的に支援していく。



【証書を手にした新規就農者】

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■直売所 ネギ栽培研修会を開催

きなあつ瑞浪出荷者協議会は、瑞浪市内にある直売所「きなあつ瑞浪」へ農産物を出荷する会員を対象に、毎年数回、野菜づくり勉強会や地区ごとの研修会を開催している。

今回は、11月28日に、ネギの主力生産者のほ場にて栽培研修会を開催し、会員など約10名が参加した。農業普及課から栽培のポイントについて情報提供をした後、ほ場管理者が栽培状況について説明、最後に出席者全員で意見交換を行った。

近年、きなあつ瑞浪におけるネギ出荷量は増えてきているが、供給量が十分でないため、更なる生産拡大を進めている。とりわけ、ネギは作型を組み合わせることで周年栽培が可能となるため、本年度から新たなブランド育成支援事業を活用し、ネギの周年栽培体系の確立に向け栽培実証を開始したところである。

今後は、春夏どり作型において植え付け後トンネル被覆実証を行う予定であり、年間を通じた安定生産技術の確立により生産拡大につなげていく。



【栽培研修会】

地域資源を活かした農村づくり

■土岐市鶴里町柿野地区 管内最後となる任意組織の法人化

「鶴里町柿野地区集落営農組合」は、昨年度から農業普及課を中心とした関係機関の支援のもと法人化を進めてきたが、11月4日に「農事組合法人 三国の郷」として設立総会を開催した。

組合員9名を中心としたオペレータ型の法人としてスタート、当該地区の更なる農地集積を進めるとともに、市中心部に比べ標高が高いなどの「地の利」を活かした魅力のある米の生産販売にも取り組むこととしている。

今後も、経営安定に向けて各種支援メニューの活用や課題解決に向けた相談活動など、伴走支援を継続することとしている。



【法人設立総会】